

悠紀齋田御田植え唄碑

1915（大正4）年の大正天皇の大嘗祭を行うに当たり、儀式に用いる、悠紀齋田御田植え歌が、1915（大正4）年5月に発表された。歌詞は、熱田神宮宮司の岡部譲、齋田地村長の早川龍介、安城農林学校長の山崎延吉によるものであった。また曲調は「五萬石でも岡崎様は城の下まで船がつく」の民謡が基調にされた。2013年6月9日に悠紀の里の第1期工事である歴史民俗資料室がオープンしそれに合わせて御田植え唄の碑が建立された。駐車場から建屋に続く通路の初めの部分に設置されている。

1番は岡部譲、2番は早川龍介、3番は山崎延吉が作詞している。

1番 岡部 譲 作 今日の良い日の御田植はじめ、稲の萬歳御代のかず やがて世界の六ッ美（睦み）の種も悠紀の御田より出るやうに
2番 早川龍介 作 管の小笠に揃ひの着物、苗もそろへば氣もそろふ 三河萬歳萬歳稲の穂に穂出るよに祈らんしよ
3番 山崎延吉 作 早苗うゑましよ眞すぐに植ゑう、すぐは神様およろこび

【岡部譲（1849～1937）】

岡部譲は浜松藩学校克明館に学び、1871（明治4）年上京し、平田・矢野・渡辺等皇学の大家を歴問し、また国語学を権田翁に学んだ。1874（明治7）年井伊谷宮の宮司、浜松県内神道教導取締、1875（明治8）年浜松県下神道事務分局長、その後秋葉神社祠官等を経て、1894（明治27）年皇大神宮権宮司を、1914（大正3）年熱田神宮、1922（大正11）年伏見稻荷の各々宮司をつとめた。

【早川龍介（1853～1933）】

早川龍介（はやかわりゆうすけ）は1872（明治5）年戸長、1880（明治13）年初代愛知県議を経て、1890（明治23）年以来愛知県から衆院議員当選10回。早くから農工業の振興に力を入れ、中国、朝鮮、米国を視察、殖産興業の発展に努めた。また財を投じ子弟に外国語を学ばせるなど国政、県政のために尽した。さらに信参鉄道取締役、愛知農工銀行、尾三農工銀行各監査役を務めた。

【山崎延吉（1873～1954）】

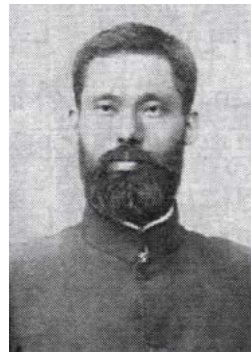
山崎延吉（やまざきのぶよし）は、石川県出身の日本の農政家・教育者、衆議院議員（1期）、貴族院勅選議員。愛知県立農林学校初代校長。帝国農会幹事。愛知県の農業改善に力を尽くし安城市一帯が「日本デンマーク」と呼ばれるほどの農業先進地になったのは山崎の力が大きい。



岡部譲



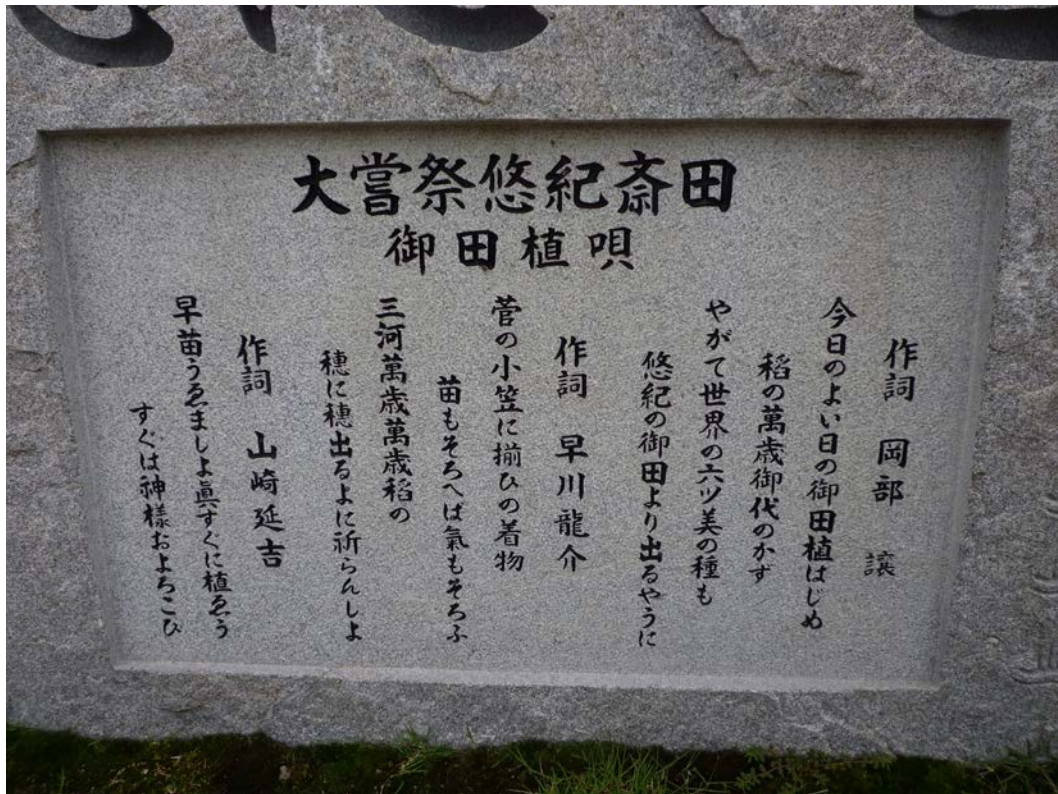
早川龍介



山崎延吉



斎田地の記念碑 大嘗祭悠紀斎田 御田植唄 2013(平成25)年 20150731



斎田地の記念碑 大嘗祭悠紀斎田 御田植唄 2013(平成25)年 20160628



本項は以下の資料を引用している。

[大嘗祭 悠紀齋田]

筆者： 野々山 克彦

監修： 野村 弘、都築 末二、山崎 鋳司、越山 義之

発行日：2014（平成26）年4月1日

印刷所：永田印刷所

[大嘗祭 六ツ美悠紀齋田100周年記念事業記念誌]

編集・発行：六ツ美悠紀齋田100周年記念事業実行委員会記念誌編集委員

発行日： 2016（平成28）年2月25日

印刷所： 大日印刷株式会社

[わたしたちのふるさと 六ッ南114選]

監修者 総代会長 平井 良美

社教委員長 近藤 武美

著者 岡崎市立六ツ美南部小学校6年児童114名

（平成25年3月19日卒業）

編者 岡崎市立六ツ美南部小学校6年担任

権田 康成、加納 隆、坂井 純、榊原 美佐子、山本 佳愛

発行日 2013（平成25）年3月1日 初版発行

印刷所 ブラザー印刷株式会社

製本 ブラザー印刷株式会社

発行 岡崎市立六ツ美南部小学校